

スポーツに関する インターネット上のネガティブなコメントの特徴 —インターネットユーザの正義感に着目して—

河野 洋

福山平成大学 (福祉健康学部健康スポーツ科学科)

E-mail : kohno@heisei-u.ac.jp

【要旨】

本研究は、スポーツに関するインターネット上のネガティブなコメント（誹謗中傷、炎上等）の特徴を明らかにすることを目的とした。ネガティブなコメントの一部がインターネットユーザの「正義感」に基づいているという知見とスポーツを事例としたネガティブなコメントに関する先行研究を基に、新たな事例によってネガティブなコメントの特徴を検証した。

本研究では調査事例として、2024年にオリンピックパリ大会に出場予定であった未成年の日本代表選手が、喫煙等の発覚により出場を辞退した事件を扱った。「Yahoo!ニュース」に掲載された当該事件に関するニュースおよびコメントを収集した後、コメントのセンチメント分析およびコーディングを行った。

結果として、本研究の調査では「ルールの遵守」「アスリートとしての資質に対する非難」「罰としてのオリンピック辞退への疑問」「スポーツ界・教育界への非難」など9つのコードが作成された。特に、「ルールの遵守」「アスリートとしての資質に対する非難」「スポーツ界・教育界への非難」については、コードの出現率とネガティブなコメントの割合が共に高かった。

本研究の調査から、ネガティブなコメントの割合が高かった上記3つのコードについてはスポーツに関するネガティブなコメントの特徴として一般化されることが示唆された。一方、ネガティブなコメントをめぐっては、「アスリートは特別な存在である／特別な存在ではない」「スポーツ界は選手を処罰すべき／守るべき」という異なる主張が存在し、選手等にはそれぞれを主張するコメントが様にネガティブな表現となって向けられていることが明らかとなった。

キーワード：インターネットコメント、アスリート、誹謗中傷、正義感

1. 緒言

1.(1) 研究背景

河野¹⁾は、深刻な社会問題となっているインターネット上の「ネガティブなコメント」(誹謗中傷, 炎上等)について、スポーツを対象とした調査を行っている。山口^{2) 3)}が述べる、ネガティブなコメントを投稿する動機としての「正義感」に着目し、スポーツに関するインターネット上のコメントの中から「正義感に基づくコメント」の存在を特定し、その特徴を明らかにすることを試みた。調査事例とされたのは2022年に起こった高校運動部活動でのコーチによる生徒への暴力事件⁴⁾であり、事例選定の理由について、①「暴力(体罰)」という社会通念・スポーツの理念双方から許されない行為に対して、正義感の高まりが予見されたこと、②当該事例の関係者にインターネット等で多くの誹謗中傷が寄せられた事実があることを挙げている。

河野¹⁾の調査では、事例に関するコメントから「社会正義」「謝罪の要求」「事実の追求」「責任の追及」「スポーツ界への批判」「教育界への批判」「大人への批判」の7つのコードが作成された。これらのコードに該当するコメントは特定の対象(人物)に対するネガティブなコメントであると同時に、内容についてなんらかの正義感に基づく投稿であると評価されたコメントとなる。たとえば、「社会正義」については「暴力は犯罪である」という考えを持ち、あらゆる暴力を許さないとする正義感に基づいて投稿されたコメントと評価される。また、これら7つのコードは第一に事例となった特定の出来事に対する反応であるとされる一方、「スポーツ界への批判」「教育界への批判」「大人への批判」については、今日のスポーツ界や教育などへの慢性的な不満や問題意識が、事例となった出来事をきっかけに表出したものだとしている。

また、河野¹⁾は正義感に基づくコメントが誹謗中傷などネガティブなコメントとしての形式を取ることに、調査結果から投稿に対するユーザのふたつの態度を指摘している。ひとつは「自身の投稿は正当な主張であって、誹謗中傷の意図はない」とする態度である。これは、「社会正義」のコードに代表され、投稿の主張が個人的な価値判断によるものでなく、法律のような社会的根拠に基づくものであることを強調する。投稿によって対象が脅威にさらされることが予見されたとしても、自身の投稿は一般論であって特定の人物を貶めようとしているわけではない、という態度を示

す。もうひとつは「対象は誹謗中傷を受けるほどのことをしたのだから仕方がない」とする態度である。暴力をふるったコーチや問題を隠蔽しようとした監督などに対し、行ったことへの罪を償わせようと迫る投稿が該当する。ユーザ自身がこのような投稿を行う背景には、スポーツ界や教育界が対象にユーザの望むような罰を与えないことへの不満があるとしている。

1.(2) 研究の関心

本研究は、河野¹⁾のいうネガティブなコメント投稿の動機となる正義感や投稿に対するユーザの態度が、一般化されるものなのかどうかを関心のひとつとした。一部のインターネットユーザがなぜネガティブなコメントを投稿するのか、あるいはどのような事例や対象がネガティブなコメントを向けられるリスクを抱えているのかを明らかにする上で、必要な試みであると考えた。ただし、本研究では一般化の範囲を、スポーツに関する事例とすることを念頭とした。「社会正義」や「謝罪の要求」などのコードは、政治や芸能など今日ネガティブなコメントが投稿され得る様々なテーマを横断するものと考えることができる。しかし、本研究は河野¹⁾の「スポーツ界への批判」といったコードを援用するなどして、インターネット全体の中でスポーツに関するコメントにみられる特徴について検討を行うこととした。

本研究では正義感に基づくコメントの知見を一般化する事例として、2024年に起こったオリンピックに出場予定であった未成年選手の喫煙に関する騒動(以下、事件)を扱うこととした。この事件では未成年の喫煙の他、競技団体の行動規範に対する違反などが発覚し、当該選手はオリンピックへの出場を辞退した。事件については、未成年の喫煙という法律で禁止されている出来事が発生したことで、インターネット上の正義感の高まりや当該選手に対するネガティブなコメントの投稿が予見された。一方、事件においては喫煙をした当該選手に対する擁護の声がみられ、オリンピックへの出場を容認する意見がみられた⁵⁾⁶⁾。これは、ニュースの多くが批判する記事を書いていたとする河野¹⁾の暴力事件の事例とは異なる現象であり、スポーツに関するインターネットコメントへの新たな知見の獲得が期待される。

1.(3) 研究の目的

本研究は、スポーツに関するインターネット上のネガティブなコメントの特徴を明らかにすることを目的とした。本研究では、以下の3つのリサーチ・クエスチョンを設定した。

- i. 河野¹⁾が示した正義感に基づくコメントのコードやネガティブなコメントを投稿することに対するインターネットユーザの態度が、本研究の調査でも認められるか
- ii. スポーツに関するネガティブなコメントについて、特に問題とされるべきコメントの所在はどこか
- iii. 事件、あるいはスポーツに関して、インターネット上にはどのような主張が存在するか

2. 方法

2.(1) データの収集・選定

インターネットニュース配信サービス「Yahoo! ニュース」(以降、「Yニュース」とする)で事件が起こった2024年7月中旬以降にトップニュースに掲載されたスポーツニュースの記事本文を収集した。続いて、収集された記事より、本文を精査し事件に関するものを選定した。

なお、Yニュースには記事に対しユーザがコメントを書き込める機能があるため、ニュースに対するコメントもテキストデータとして収集した。

2.(2) 形態素解析の実施

収集されたコメントデータに対し形態素解析を実施し、コメントで使用されている単語とその出現回数を取得した。なお、形態素解析には計量テキスト分析ソフト「KH Coder」を使用した。

2.(3) センチメント分析の実施

収集されたコメントデータについて、センチメント分析を実施した。分析の趣旨はコメント全体からネガティブなコメントを分類するためとし、最終的なセンチメントの分類は「ネガティブ」と「ネガティブでない」とした。

はじめに、河野ら⁷⁾によるAIを用いたコメントの分類を行った。具体的な作業としては、「Google スプレッドシート」のアドオン“GPT for Sheets™ and Docs™”が提供する関数“GPT_CLASSIFY”を使用し、コメント

を“positive”“neutral”“negative”のいずれかに分類した。その後、コーダー1名がAIによる分類結果を精査し、より適切であると判断したものについてはコメントの分類を変更した。最後に、“positive”と“neutral”を「ネガティブでない」に統合した。

2.(4) コメントのコーディング

コーダー1名により、本研究の趣旨を念頭としたコメントのコーディングを行った。コーディングの際は、形態素解析で出現回数が多かった語が特徴語となるよう努めた。

2.(5) データの集計・比較

作成されたコードについて、それぞれの出現率を算出した。また、各コードについて、コメントのセンチメントの割合を算出した。

3. 結果

3.(1) データの収集結果について

本研究の調査で実施したデータ収集の結果、事件に関する10件のニュースと、27,735件のコメントが収集された。ニュース記事については、選手が喫煙疑惑により代表から離脱したことを報じたもの(3件)、喫煙・飲酒による選手のオリンピック辞退を報じたもの(4件)がみられた。また、事件に関して「監督・コーチ」(2件)、「恩師」(1件)、「協会」(2件)、「JOC」(1件)、「大学」(1件)のそれぞれのコメントが報じられた。

3.(2) 形態素解析の結果

収集されたコメントに対し形態素解析を行った結果、16,436種、555,700語が抽出された。(表1)

表1 形態素解析の結果(抜粋)

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
喫煙	9899	ルール	2437	議員	388
飲酒	6376	協会	1944	若者	346
代表	4533	ダメ	1758	政治家	326
オリンピック	3992	厳しい	1722	程度	322
日本	3491	大人	1343	かわいそう	281
辞退	3257	大学	1145	チク	254
未成年	3059	常習	1042	引退	239
法律	2767	自覚	1040	説明	148
プレッシャー	2662	立場	590	密告	140
違反	2522	世の中	539	追放	119

3.(3) センチメント分析の結果

AIによるコメントのセンチメント分析を行った結果、全体の約70.8パーセントにあたる19,640件がネ

ガティブなコメントに分類された。この結果をコーダーが精査した結果、9,883件のコメントが「ネガティブ」から「ネガティブでない」に、1,107件のコメントが「ネガティブでない」から「ネガティブ」に変更された。最終的に、コメント全体の約39.2パーセントにあたる、10,864件がネガティブなコメントに分類された。

3.(4) コーディングの結果

本研究の調査におけるコーディング作業の結果、9つのコードが作成された。

1つ目のコードは「ルールの遵守」とした。すべての人がルールの下で平等であり、ルールに従わない者は罰せられるべきであるとするコメントが該当し、「法律」「違反」「ルール」などが特徴語となった。

2つ目のコードは「アスリートとしての資質に対する非難」とした。未成年者の喫煙という行為がアスリートや日本代表としてふさわしくないとするコメントが該当し、「自覚」「立場」などが特徴語となった。

3つ目のコードは「事実の追求」とした。喫煙や飲酒の実態や動機、辞退を決断した背景などについての事実を求めるコメントが該当し、「プレッシャー」「常習」などが特徴語となった。

4つ目のコードは「キャンセルカルチャー」とした。選手をスポーツ界や日本社会の表舞台から追放することを求めるコメントが該当し、「引退」「追放」などが特徴語となった。

5つ目のコードは「罰としてのオリンピック辞退への疑問」とした。喫煙等の罰としてオリンピック不参加は過剰であるとするコメントが該当し、「程度」「かわいそう」などが特徴語となった。

6つ目のコードは「内部通報者への非難」とした。オリンピック直前の内部通報に対し、通報者の行為を非難するコメントが該当し、「チク(る)」「密告」などが特徴語となった。

7つ目のコードは「スポーツ界・教育界への非難」とした。選手が所属する協会や大学の態度、あるいは未成年の非行が度々問題となるスポーツや教育の現状を非難するコメントが該当し、「協会」「大学」などが特徴語となった。

8つ目のコードは「大人への非難」とした。未成年が喫煙等を行ったことに対し、大人に原因や責任があるとするコメントが該当し、「大人」「若者」などが特徴語となった。

9つ目のコードは「日本社会への非難」である。選手が過剰に非難を受ける状況を異常だとし、日本社会はもっと大きな問題を抱えているとするコメントが該当し、「世の中」「政治家」などが特徴語となった。

3.(5) データの集計

コメント全体に対する各コードの出現率を算出した結果、最も出現率が高かったのは「アスリートとしての資質に対する非難」のコードで、17.8パーセントであった。続けて「ルールの遵守」(14.6%)、「スポーツ界・教育界への非難」(9.8%)、「罰としてのオリンピック辞退への疑問」(9.5%)の順に出現率が高かった。(表2)

コメントのセンチメントをコード別に集計した結果、ネガティブなコメントの割合が最も多かったのは「キャンセルカルチャー」で、95.5パーセントであった。続けて、「アスリートとしての資質に対する非難」(76.7%)、「スポーツ界・教育界への非難」(76.6%)、「ルールの遵守」(67.4%)の順にネガティブなコメントの割合が高かった。(表3)

表2 コードの出現率

コード	出現コメント数	出現率
アスリートとしての資質に対する非難	4942	17.8%
ルールの遵守	4047	14.6%
スポーツ界・教育界への非難	2727	9.8%
罰としてのオリンピック辞退への疑問	2641	9.5%
日本社会への非難	1747	6.3%
内部通報者への非難	1321	4.8%
キャンセルカルチャー	937	3.4%
大人への非難	937	3.4%
事実の追求	852	3.1%
コードあり	15976	57.6%
コードなし	11759	42.4%

表3 コード毎のネガティブなコメント数と割合

コード	ネガティブ		ネガティブなコメントの割合
	ネガティブ	でない	
キャンセルカルチャー	895	42	95.5%
アスリートとしての資質に対する非難	3792	1150	76.7%
スポーツ界・教育界への非難	2088	639	76.6%
ルールの遵守	2726	1321	67.4%
大人への非難	426	511	45.5%
事実の追求	256	596	30.0%
日本社会への非難	469	1278	26.8%
内部通報者への非難	128	1193	9.7%
罰としてのオリンピック辞退への疑問	43	2598	1.6%

4. 考察

4.(1) 結果の扱いについて

本研究の調査では、事例となった事件に関する約27,000件のコメントが収集された。選手に対してはオリンピック期間中や終了後に言及のあるニュース記事が一定数みられたが、コメントの反応としては喫煙の疑惑による代表離脱から辞退の決定までの約3日間に集中した様子がみられた。

調査で得られた結果については、それを計量的に扱うことには限界がある。Yニュースはあくまでもニュースに対する反応としてコメントが投稿されるため、コメントは必ずしも事件や選手に対する直接的な意思表示とはならない。また、インターネットコメントをめぐってはニュース記事に対する反論のような形でなんらかの主張が誘発されることがあるとされている⁸⁾⁹⁾。そのため、たとえば本研究の結果をもって、選手がオリンピックに出場できなかったことをどの程度のユーザが支持しているか、といった世論調査のような解釈は一概にはできない。

ただし、本研究はYニュースに掲載された事件に関する記事を選定した後は、記事の取捨選択を行っていない。それ以外の点でも、センチメント分析の結果やコードの出現率について、データ本来の量的評価を変化させるような手順は取っていないと考えられる。よって、割合の評価や比較においては注意を払いつつ、本研究の結果を計量的に扱うこととした。

また、本研究の調査で実施したセンチメント分析で、AIが「ネガティブ」に分類したコメントの約半数が、コーダーによって「ネガティブでない」に変更された。これは「タバコ」や「喫煙」という単語自体が「ネガティブ」に振り分けられる要因となっていたため、河野ら⁷⁾がいう「スポーツの文脈」の影響によるものではないといえる。

4.(2) 出現コードについて

本研究の調査ではコメント内容を特徴づける9つのコードが作成された。事例の選定にあたっては、事件に関して選手を擁護する声が上がったことを述べた。作成されたコードにおいては、「罰としてのオリンピック辞退への疑問」と「内部通報者への非難」に分類されたコメントに、選手を擁護する態度が多く認められた。前者については「オリンピック不参加は喫煙の罰としてバランスが取れていない」「他競技で同様の事例

があったが、オリンピックに参加できないような処分はなかった」「選手を犯罪者のように扱うのはおかしい」といった内容のコメントなどが認められた。後者については、「選手は罫にはめられた」といった内容のコメントが認められたが、インターネットで問題視される「陰謀論」の性格があり、選手を擁護する根拠としては慎重に扱う必要がある。

本研究の調査で作成されたコードのうち、「アスリートとしての資質に対する非難」「ルールの遵守」「事実の追求」「キャンセルカルチャー」「スポーツ界・教育界への非難」「大人への非難」の6つは、先行研究で示されたコードに類似するものとなった。最も出現率が高かった「アスリートとしての資質に対する非難」は、河野¹⁰⁾の「選手の品格への批判」に類似するものと考えられる。喫煙という行為だけでなく、キャプテンという立場であったことや事件に関して選手から言い訳ともとれる発言があったとされたことなどにより、諸々の言動がアスリート、あるいは日本代表としてふさわしくないと考えられた。

「ルールの遵守」は、河野¹⁾の「社会正義」に類似するものと考えられる。河野¹⁾の事例では遵守すべきルールとして法律を念頭においていたが、事件をめぐっては法律の他、選手の所属する協会が定めた日本代表選手の行動規範に違反したことについての言及がみられた。一方、河野¹⁾の事例では暴力を「スポーツ以前の問題」として捉える態度がみられるが、事件については「ただの未成年ならともかく、日本代表選手なのだから許されない」といったように、法律よりも行動規範を重視する投稿が一定数みられた。

「事実の追求」は、河野¹⁾の事例でも同様に作成されている。事件においては、選手がいつから喫煙をしていたのか、喫煙の動機はなんだったのか、辞退は本当に自分の判断なのかといったことを明らかにすることを求める投稿がみられた。また、「キャンセルカルチャー」は河野¹⁾の「責任の追及」に類似するものと考えられる。河野¹⁾の事例では関係者がしばらく社会的な地位を保ち続けていたことに対し、その地位を放棄することをせまる投稿があったと考えられる。それに対し、選手は事件に関わってオリンピックを辞退する決断をしており、そのことに「責任を負った」と考えたユーザがいたことは予見されるものである。しかし、コメントの中には「スポーツ界にはもういられない」「二度と顔を見せるな」といった内容のものが認め

られた。本研究ではこれらのコメントを過剰な責任の追及と捉え、近年インターネットで問題視されている、特定の個人や組織を社会から追放しようとする「キャンセルカルチャー」として評価した。

「スポーツ界・教育界への非難」および「大人への非難」は、河野¹⁾が同一のコードを作成し、ネガティブなコメントが誘発される慢性的な原因として指摘したものである。事件に関わっては、大学がスポーツ活動の場と教育の場という両方の側面を持っており、コードの作成において分割が困難であったため、河野¹⁾の「スポーツ界への批判」「教育界への批判」がひとつにまとめられた。また、今回新たに「日本社会への非難」のコードが作成された。これらのコードに分類されるコメント内容としては、「協会や大学は自らの保身ばかり考えている」「周囲の大人は選手に全責任を押し付けようとしている」「立場の弱者だけが糾弾されて、権力者の悪事は見て見ぬふりをされている」といったものがみられた。

4.(3) 問題の所在とユーザの態度について

今回作成されたコードは、分類されたコメントがなんらかの正義感に基づいて投稿されている可能性を示唆するものといえる。問題は河野¹⁾がいうように、それらのコメントがネガティブな表現を伴うことにある。本研究の調査で作成されたコードのうち、「ルールの遵守」と「アスリートとしての資質に対する非難」は、選手がオリンピックに参加できないことを支持するものと捉えられる。このふたつのコードはともに出現率が高かっただけでなく、コメントがネガティブな表現を伴う割合が70パーセント前後あった。また、いずれも先行事例で認められているコードであり、アスリートがネガティブなコメントを向けられる背景として一般化される可能性がある。本研究において、最も大きな問題の所在だと考えられる。

このふたつのコードについては河野¹⁾が指摘する、コメントがネガティブな表現を伴うことに対するユーザの態度がそれぞれ認められる。「ルールの遵守」では事件について「ダメなものダメ」で「例外はない」ことが強調されている。そこでは、オリンピックに参加すべきでないという結論が状況から演繹的に導き出されるもので、個人的な感情で特定の人物を貶めるものではないものとされる。自分は正しいことを言うており、それで誰かが傷ついたとしても、正しいことが

声に出せないことに比べれば些細なことである、と考えられている。逆に「アスリートとしての資質に対する非難」において、選手は事件によって家族や周囲でサポートしてくれていた人々、日本国民を「裏切った」とされている。このような点において選手は「ネガティブなコメントを受けるに値する存在」であり、自身を含め多くのユーザから心無い投稿を向けられるのは「自業自得」だと考えられている。

「キャンセルカルチャー」でネガティブなコメントの割合が多いことは自明だといえるが、本研究の調査において「スポーツ界・教育界への非難」でネガティブなコメントの割合が高かったことについても問題の所在として取り上げるべき点だと考えられる。河野¹⁾がいうとおり、このコードはスポーツ界や教育界への慢性的な不満や失望を示すものとして評価される。事件については「同様の不祥事が隠蔽されている」「力の強い者が選手に圧力をかけている」「オリンピックをめぐる繰り返しの不祥事が起きている」などのコメントが投稿されている。今後もこういったコメントは、スポーツに関して個別の事例が起きるたびに投稿される可能性があるものといえる。

4.(4) ネガティブなコメントの根底にある複雑な正義感

これまで誹謗中傷をはじめとしたインターネット上のネガティブなコメントを「正義感に基づくコメント」として捉え直す試みは、問題の解決に向けた新たな視点の獲得が期待される。本研究の調査において、ネガティブなコメントの根底にあるインターネット上の正義感の二重性、あるいは複雑さといったものが指摘できるものと考えられる。

「ルールの遵守」において、選手は法律と協会の行動規範というふたつのルールに違反したとされている。ただし、「ルールの遵守」に分類されたコメントにおけるユーザの態度は一様ではない。ある投稿は選手が「アスリートである前に一人の日本人」であることを強調する。一方、国内で未成年の喫煙がゼロではない状況を引き合いに出しながら「ただの若者ならまだしも、日本代表なのだから」と意見を主張する投稿もある。選手は「ただの一人間である」と「ただの一人間でない」ことを同時に指摘され、どちらからも「オリンピックに参加する資格はない」と糾弾されることとなる。

「スポーツ界・教育界への非難」について、協会と大

学には選手の不参加を支持するユーザからも、選手を擁護するユーザからもネガティブなコメントを向けられた。つまり、前者は協会や大学に選手への処罰を求め、後者は組織が選手を守ってあげてを求めている。事件に関する協会や大学の対応は、支持・擁護のどちらのユーザにとっても不満なものであったと考えられ、スポーツ界や教育界は問題を抱えている、という意識は一致している。

本研究で得られた結果は、河野¹⁾がコーチの暴力事件を対象に実施した調査結果とは異なる点があるといえる。これまでインターネット上の正義感は現実社会と対置され、現実社会で実現されない正義がインターネット上で顕在化されるものとして捉える視点があった。一方今回の調査では、インターネット上には複数の異なる正義感があり、根拠の異なる主張がネガティブなコメントという共通の表現となって表れることが認められた。少なくともこのことは、ネガティブなコメントという表層のみに着目しては明らかとされなかったことだと考えられる。ただし、このような正義感の複雑さは、今後に向けた大きな課題となろう。

5. まとめ

本研究は、スポーツに関するインターネット上のネガティブなコメントの特徴を明らかにすることを目的とした。先行研究が示す正義感に基づくコメントの視点から、スポーツに関するネガティブなコメントの問題の所在や、スポーツについてインターネット上にはどのような主張が存在するかを検証した。本研究では調査事例として、2024年にオリンピックパリ大会に出場予定であった未成年の日本代表選手が、喫煙等の発覚により出場を辞退した事件を扱った。当該事件についてはオリンピックの辞退という決断を中心に、インターネットのみならず現実社会においても異なる、対立する主張が認められた。方法としては、「Yahoo!ニュース」に掲載された当該事件に関するニュースおよびコメントを収集した後、コメントのセンチメント分析およびコーディングを行った。

調査の結果、当該事件に関する10件のニュースと、27,735件のコメントが収集された。収集されたコメントのセンチメントについては、約39.2パーセントのコメントがネガティブと評価された。収集されたコメントに対しコーディングを行った結果、「ルールの遵守」「アスリートとしての資質に対する非難」「罰としての

オリンピック辞退への疑問」「スポーツ界・教育界への非難」など9つのコードが作成された。特に、「ルールの遵守」「アスリートとしての資質に対する非難」「スポーツ界・教育界への非難」については、コードの出現率が上位3件である上、ネガティブなコメントの割合が70パーセント前後と高かった。

本研究によって、「ルールの遵守」「アスリートとしての資質に対する非難」「スポーツ界・教育界への非難」のコードについては、スポーツに関するネガティブなコメントの特徴として一般化される可能性が示唆された。一方、コメントをめぐっては、「アスリートは特別な存在である／特別な存在ではない」「スポーツ界は選手を処罰すべき／守るべき」という異なる主張が存在した。選手等にはそれぞれを主張するコメントが様にネガティブな表現となって向けられており、コメントの表層からは理解できない正義感に基づくコメントの複雑さが明らかとなった。

本研究で得られた結果について、それがYニュースという特定のサービスを対象としたものであることについては考慮が必要である。たとえば、Yニュースのユーザは約3分の2が40代以上とされている¹¹⁾。このことは、今回の調査で「自分たちが若いときは、未成年の喫煙など珍しい話でなかった」「昔はもっと喫煙に対して寛容だった」といった内容のコメントが一定数みられたことから推察される。また、Yニュースは必ずしもアスリートがネガティブなコメントを受ける「現場」ではなく、むしろそのような問題意識はTwitter（現在の「X」）などに向けられることが多いと思われる。この点について、Yニュースはスポーツに関する出来事についての、いわゆる「ネット世論」の形成の場と捉えることができよう。ただし、不特定多数に公開された言論空間で生じる問題と、アスリートとユーザとの閉鎖的なつながりの中で起こる問題は区別して考える必要があるといえる。

山口²⁾³⁾がネガティブなコメントを投稿する動機を「正義感」と称したことについて、今後「インターネット上の正義感とは一体なんなのか」という視点での研究が必要になると考えられる。河野¹⁾はネガティブなコメントの一部が、スポーツをよりよくしようとする正義感・使命感に基づいて投稿されている可能性に言及したが、今回の調査でそのことを積極的に支持するデータはみられなかった。ただし、この結論を「未成年の喫煙」というひとつの事例から導くことは困難で

ある。今後はインターネット上の正義感についての仮説を立て、それを検証するための事例を選定する調査デザインも必要になると考えられる。

参考文献

- 1) 河野洋. (2023). インターネット上の「正義感に基づくコメント」の検証—2022年秀岳館高等学校サッカー部の暴力事件を事例として—. 福祉健康科学研究, 18, 89-95.
- 2) 山口真一. (2016). 炎上加担動機の実証分析. <https://www.sgu.ac.jp/soc/ssi/papers/32.pdf>. (accessed 2024-09-29).
- 3) 山口真一. (2020). 正義を振りかざす「極端な人」の正体. 光文社.
- 4) 読売新聞オンライン. (2022). 強豪サッカー部コーチ、生徒に殴る蹴るの暴行か…熊本・秀岳館高. <https://www.yomiuri.co.jp/national/20220422-OYT1T50150/>. (accessed 2024-09-29).
- 5) デイリー新潮. (2024). そうそうたる有名人が「宮田笙子は五輪に出場すべき」とXに投稿してもネット世論は完全無視 謎を解くカギはビートきよしの投稿にあった. <https://www.dailyshincho.jp/article/2024/07241050/>. (accessed 2024-09-29).
- 6) 日刊スポーツ. (2024). 為末大氏、飲酒喫煙宮田笙子に「問題にフォーカスするより可能性信じ」1800文字長文エール. <https://www.nikkansports.com/olympic/paris2024/entertainment/news/202407200001373.html>. (accessed 2024-09-29).
- 7) 河野洋, 藤本太陽, 北川純也, 河野夏美. (2024). AIを用いたスポーツに関するインターネットコメントのセンチメント分析方法の検討. 福祉健康科学研究, 19, 71-78.
- 8) 河野洋. (2019). ラグビーの「日本代表」をめぐるインターネットのコメント分析. 日本体育学会体育社会学専門領域発表抄録集, 1, 124-127.
- 9) 河野洋. (2020). スポーツニュースとインターネットのコメントとの関係—高校野球の球数制限を事例として—. 福祉健康科学研究, 15, 61-70.
- 10) 河野洋. (2023). インターネット上の「正義感に基づくコメント」の検証—FIFAワールドカップカタール2022を事例として—. 日本体育・スポーツ・健康学会体育社会学専門領域発表抄録集, 4, 20-23.
- 11) LINE ヤフー for Business. (2023). Yahoo! JAPAN 媒体資料. https://s.yimg.jp/images/listing/pdfs/yj_mediaguide.pdf. (accessed 2024-11-04).

Characteristics of Negative Comments on Sports on the Internet: Focusing on Internet Users' Sense of Justice

Yoh KOHNO

Fukuyama Heisei University

E-mail : kohno@heisei-u.ac.jp

Abstract

This study aimed to clarify the characteristics of negative comments (such as slander and online flaming) related to sports, based on findings that some negative comments are driven by internet users' sense of "justice" and previous studies on such negative remarks in sports. A new case was employed in this research to further investigate these characteristics.

As a case study, the research focused on an incident involving a minor Japanese athlete, who was set to participate in the 2024 Paris Olympics but withdrew after being found to have been smoking. News articles and comments on this incident were collected from "Yahoo! News", and the comments were analyzed for sentiment and coded.

The analysis resulted in nine codes, including "compliance with rules", "criticism of the athlete's character", "doubt regarding withdrawal as a form of punishment", and "criticism of the sports and educational systems". Among these, "compliance with rules", "criticism of the athlete's character", and "criticism of the sports and educational systems" stood out, with a high occurrence and a large proportion of negative comments.

The study suggests that these three codes, with their high proportion of negative comments, may be generalized as key characteristics of negative commentary on sports. Additionally, it was revealed that there were conflicting perspectives, such as "athletes are/are not special" and "the sports world should punish athletes/should protect athletes", with both sides uniformly expressing their views through negative comments directed at athletes.

KEYWORDS : Internet Comments, Athletes, Online Abuse, Sense of Justice